

ごあいさつ

弊社創業者・松下幸之助は、1904(明治37)年11月23日、故郷の和歌山県から、ひとり大阪に旅立ち、1910(明治43)年6月まで、商売の本場である船場で丁稚として働きました。独立開業し、実業家として成功したのちも、この丁稚奉公時代は自らの基礎をつくった日々であったと述べています。

丁稚奉公の生活は、大阪市南区(現・中央区)八幡筋にあった宮田火鉢店から始まりました。後年、幸之助は「晩、店をしまつて床にはいると母のことが思い出されて泣けて仕方がなかった。これは初め四、五晩も続いたし、時を経て後も時々思い出しては泣けてきた」と回顧しています。1905(明治38)年2月には大阪市東区(現・中央区)船場堺筋淡路町の五代自転車商会に移り、店主の五代音吉と、妻のふじ、音吉の兄で全盲の五代五兵衛、そして父・政楠から、商売や人生におけるさまざまな訓えをしつけられ、多感な少年時代を過ごしました。

幸之助は後年、「松下電器が将来如何ニ大ヲナストモ、常ニ一商人ナリトノ觀念ヲ忘レズ」と社員に述べています。彼の言う「一商人」とは、どのような体験に支えられ、どのような思いが込められていたのでしょうか。今回の企画展示では、幸之助の丁稚奉公時代の日々を紹介し、商人としてのルーツに迫りたいと思います。

幸之助 少年時代の年表

西暦	和暦	年齢	幸之助の出来事	家族の出来事	社会の出来事
1894	明治27	0	幸之助生まれる		7月 日清戦争勃発
1899	明治32	4	土地、屋敷を売り払い、和歌山市内に移り住む		
1900	明治33	5		次男・八郎病没(享年17)	4月～11月 パリ万博開催
1901	明治34	6	幸之助、雄尋常小学校に入学	次女・房枝病没(享年20) 長男・伊三郎病没(享年23)	
1902	明治35	7		父・政楠、私立大阪盲啞院に職を得て、単身大阪へ	
1903	明治36				9月 大阪市電築港線が開業
1904	明治37	9	11月23日 幸之助、大阪へ向かう 宮田火鉢店で奉公スタート はじめての給料として五銭白銅をもらう		2月 日露戦争勃発
1905	明治38	10	2月 五代自転車商会へ奉公替え		1月 夏目漱石「吾輩は猫である」が『ホトギス』誌上で連載開始
1906	明治39	11		母・とく枝と姉が大阪へ移り住む 四女・ハナ没(享年17) 三女・チヨ没(享年21) 政楠病没(享年51) 政楠の没後、とく枝と五女・あいと和歌山へ帰る	
1908	明治41	13	タバコの買い置きを試みる 1人で自転車を売る		8月 大阪市電東西線、南北線が開業
1909	明治42	14	店の商品をごまかして小遣いにしていた同僚の進退に抗議		10月 伊藤博文暗殺 12月 大阪市電九条中之島線が開業
1910	明治43	15	大阪市内を走る路面電車を見て電気の仕事を志し、五代自転車商会を辞す		5月 大逆事件起こる

※その後、1913年に母・とく枝(享年57)、1919年に五女・あい(享年28)、1921年に長女・イワ(享年46)がそれぞれ病没し、26歳で天涯孤独となる